

「天使の顔をしたステパノ」

～本村弘兄召天 天国を想う～

「この時、議会にいた者は、いっせいにステパノに目をやりました。すると、彼の顔は、天使のように輝いていました。」使徒行伝6章15節 [リビングバイブル]

「しかし、ステパノは聖霊に満たされ、ぐっと頭をもたげて天を見上げました。その目には、神の栄光と神の右に立っておられるイエスの姿が見えました。『ごらんなさい。天が開けて、メシヤであるイエス様が、神の右に立っておられます。』…石が雨あられと飛んで来る中で、ステパノは祈りました。『主イエスよ。私の霊を迎え入れてください。』そして、ひざまずき、『主よ、どうぞこの罪の責任を、この人たちに負わせないでください!』と大声で叫んだかと思うと、ついに息絶えました。」使徒行伝7章55・56、59・60節 [リビングバイブル]

平昌五輪の日本勢の活躍に励まされます。自分のなすべき使命に真直ぐに進む姿は私たちの心を打ちますね。

先週日曜日、また翌日の月曜日と、愛する本村弘兄の葬儀を無事に執り行うことができました。遠い中、多くの兄弟姉妹が参列してくださり、共に精一杯讃美歌を歌い、彼を天国にお送りし、残されたご家族の皆様に慰めと励ましを届けることができ、その使命を果たすことができましたことを、心より感謝すると共に、主の驚くばかりの恵みを感じました。

最後の火葬される瞬間は、アメイジング・グレイスを賛美しながら、お送りしましたが、ご遺族の皆様への叫びは、未だに私の耳から離れることはありません。しかし、ご遺族の皆様も、ガンとの闘病生活の時間から、じっくりと真実に関わることができたこと、そして、葬儀もご家族主導で作上げられたこと、その姿を間近で見させて、良い時間を持たなとつくづく感じました。また新生病院のスタッフ、教会のチャプレンと、信徒の皆様のお暖かさ、肌で感じながら、ひと時を過ごすことができたことは本当に大きな慰めになっていると思います。

彼の最期の姿を見ながら、私たちの最期をどのように過ごすべきかについて、深く考えさせられました。やはり、家族が最も近い存在です。そんな家族への想いをきちんと表現できたら素晴らしいと思います。そして、そんな家族に自分自身の信仰をどのように真実に伝えることができるかということも同時に考えて行かなければなりません。私たちに与えられている人生の時間には制限があります。常日頃から、神様に対して、また、周りの人々に対して、誠実に、真実に自分自身をあらわしていきたいと願います。

殉教の死を遂げようとするステパノの顔は、天使のような顔をしていました。そして、彼は、天国を見つめ、そこにおられる主イエス様をはっきりと見ていました。私たちのこの世での人生は、そのまま、永遠の天国へとつながっていることをもっともっと意識していきましょう!